

名古屋の水循環について

■アンケートの趣旨

名古屋市では、豊かな水の環（わ）がささえる『環境首都なごや』の実現をめざして「水の環復活 2050 なごや戦略」を策定しております。

今回のアンケートは、「水循環（＝水の環）」について意識や行動をおたずねし、今後の事業を進めるうえでの参考とさせていただくものです。

■説明・前提条件

Q 1：必須 ・選択数 1つ	Q 2：必須 ・選択制限なし	Q 3：必須 ・選択制限なし	Q 4：必須 ・選択数 1つ
Q 5：必須 ・選択数 3つまで	Q 6：必須 ・選択制限なし	Q 7：必須 ・選択制限なし	Q 8：必須 ・選択数 1つ
Q 9：必須 ・選択数 1つ	Q 10：必須 ・選択制限なし	Q 11：必須 ・選択制限なし	Q 12：任意 ・自由記載

- ▶ 年代・居住区・性別の属性は事前に登録されたモニターの属性から取得
- ▶ 比率はすべて、各質問の回答者数に対するパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出（このため、合計が100%にならないことがある）
- ▶ 複数回答が可能な質問については、各項目の比率の合計は通常100%を超える

■アンケート実施期間

令和5年11月10日（金） から 令和5年11月20日（月）まで

■モニター数・アンケート回答数

対象モニター数： 500人 回答数： 437人 有効回収率： 87.4%

■問い合わせ先

調査テーマに関すること
環境局 地域環境対策課

電話：052-972-2675 F A X：052-972-4155
E-Mail：a2675@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

調査概要に関すること
スポーツ市民局 広聴課

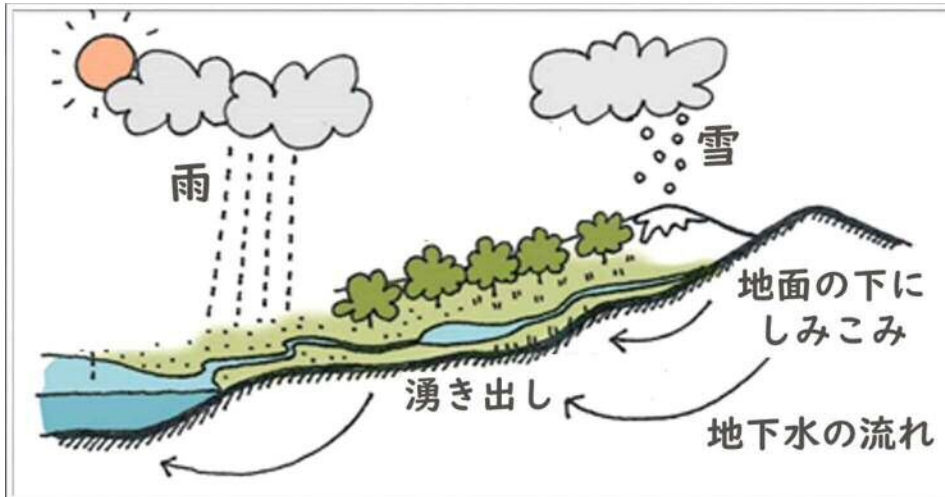
電話：052-972-3140 F A X：052-972-3164
E-Mail：net-moni01@sportsshimin.city.nagoya.lg.jp

回答集計

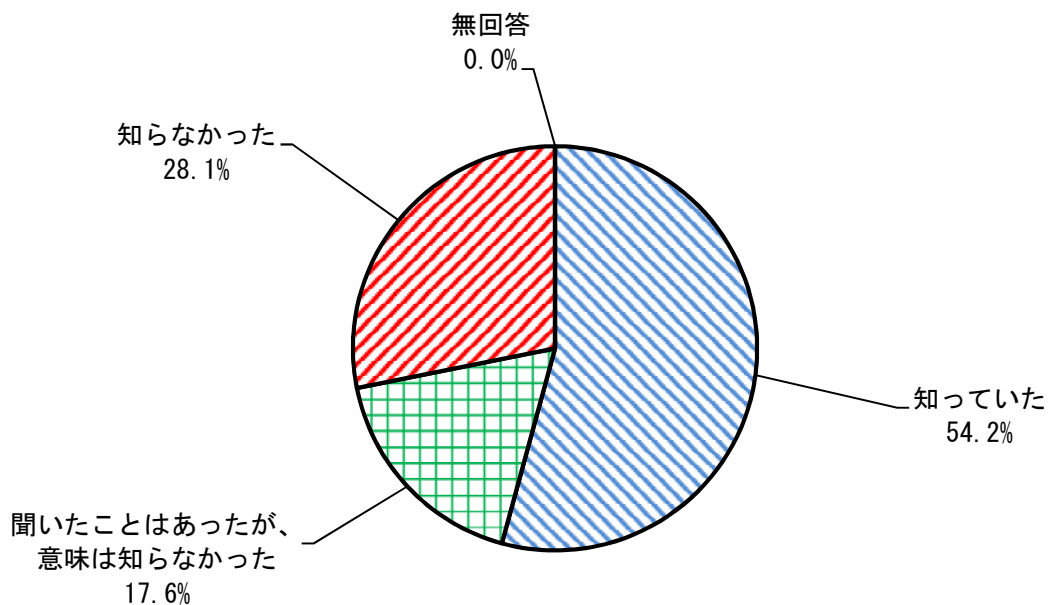
※各図表の「N」は、回答者数を表しています。

地上に降り注いだ雨や雪は、一部は蒸発し、また一部は地中に浸透します。浸透しきれない分は地表から河川に流れ、海へ注ぎます。地中に浸透した水は、一部は地表面や植物の葉からの蒸発散により再び大気に還り、また一部は地下水の流れとなり、ゆっくりと河川や海へと至り、やがて再び湧き出します。このように、水が気体・液体・固体と姿を変えながら地球をぐるぐるめぐることを「水循環」といいます。

Q1【※必須】あなたは、「水循環」という言葉を知っていましたか。（選択は1つ）



N=437



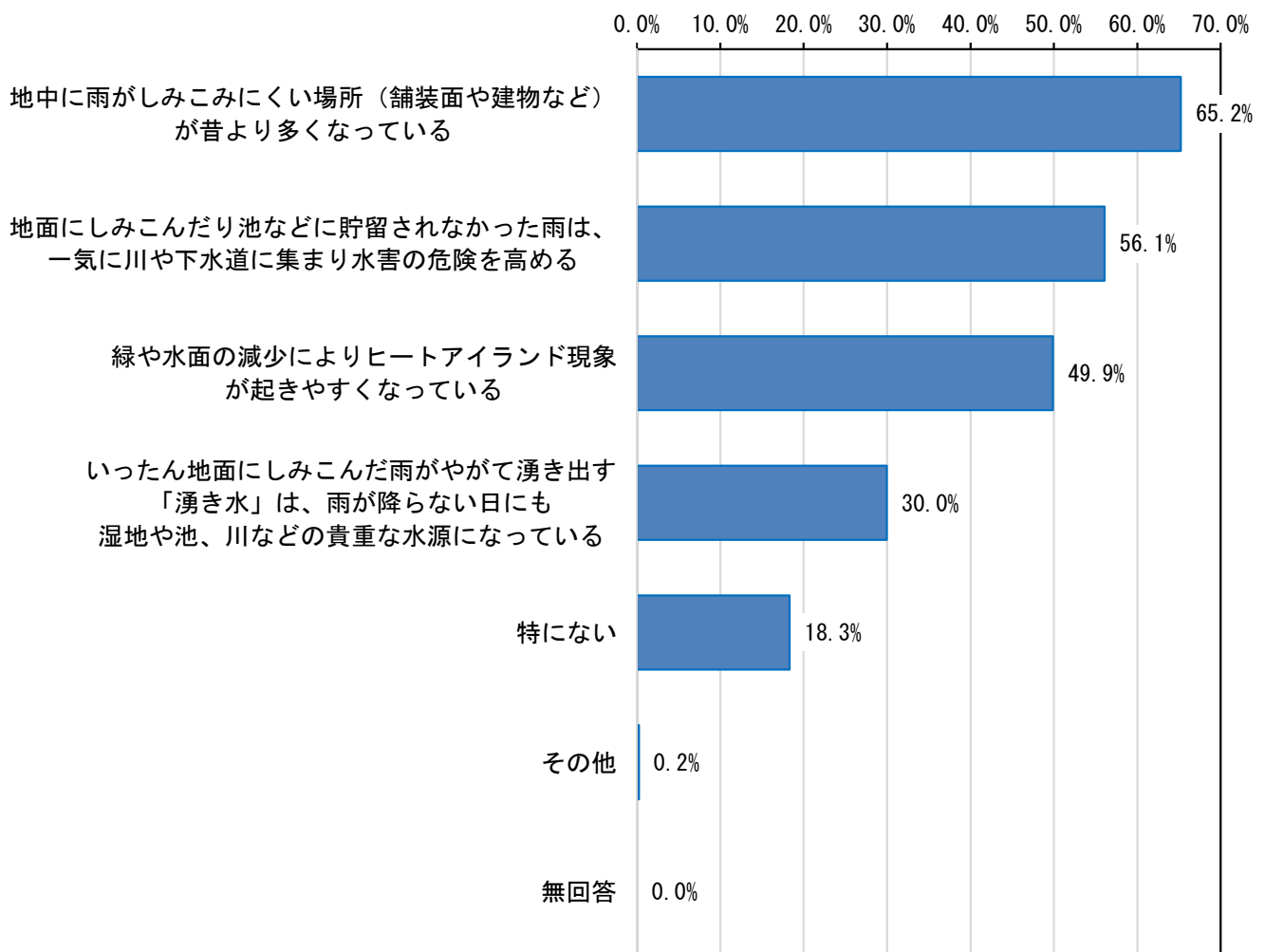
本市では、他の多くの都市と同様、市街地の整備や拡大に伴い、森林や農地等であったところに建物が建ったり舗装道路ができたりしました。生活は便利になりましたが、水循環の面から見ると、雨を貯めたりしみこんだりしにくい地表面が広がることになりました。そこで、名古屋の水循環を健全な状態に回復するために、「水の環復活 2050 なごや戦略」及びその実行計画「水の環復活 2050 なごや戦略第 2 期実行計画」を策定し、取組みを進めています。

【参考資料】関連リンク：水の環復活 2050 なごや戦略 第 2 期実行計画（名古屋市公式ウェブサイト）

<https://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000076890.html>

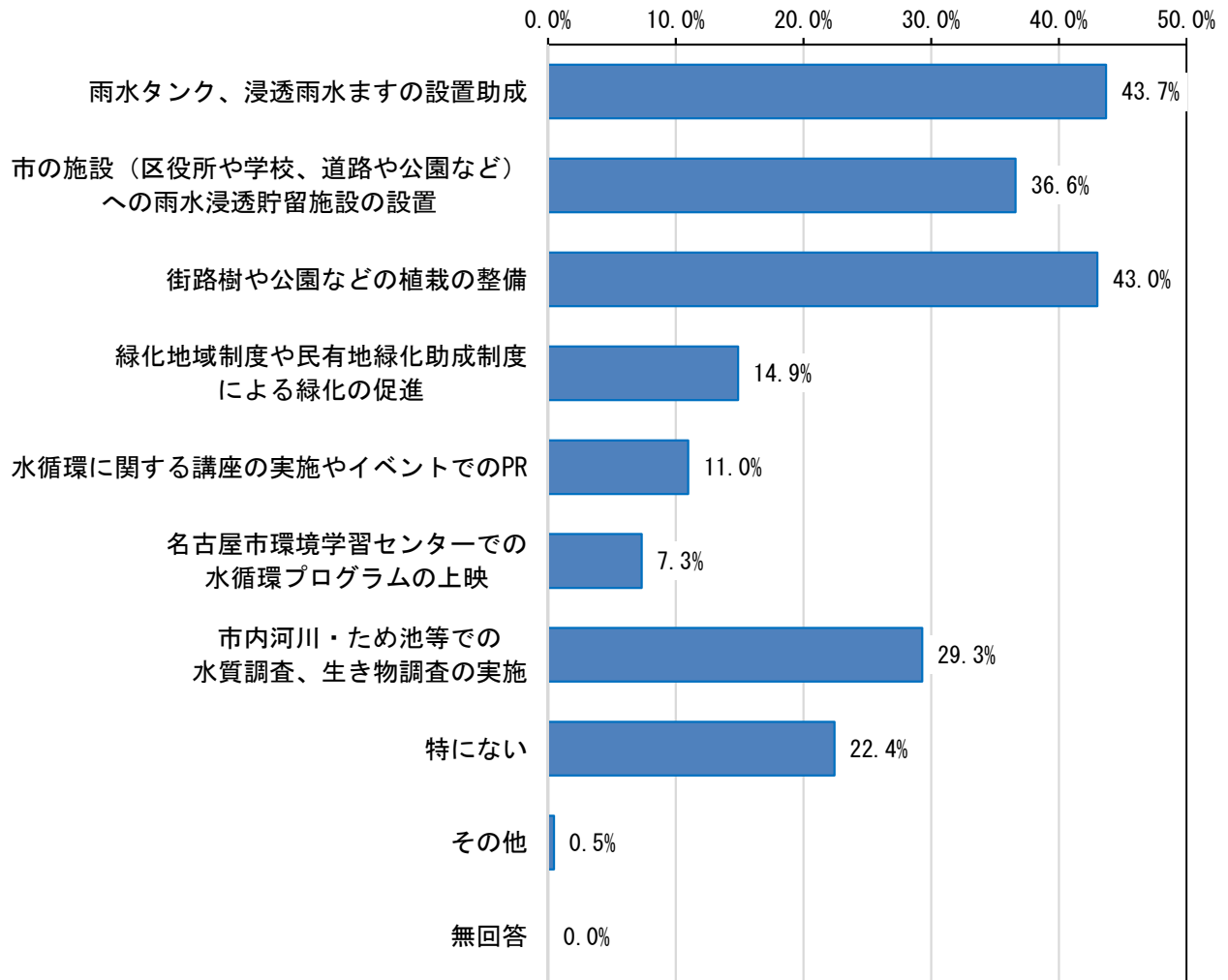
Q 2 【※必須】名古屋の水循環の現状について、あなたが知っていることは何ですか。
(選択はいくつでも)

N=437



Q3 【※必須】名古屋市が取り組んでいる水循環に関する施策のうち、あなたが知っているものは何ですか。（選択はいくつでも）

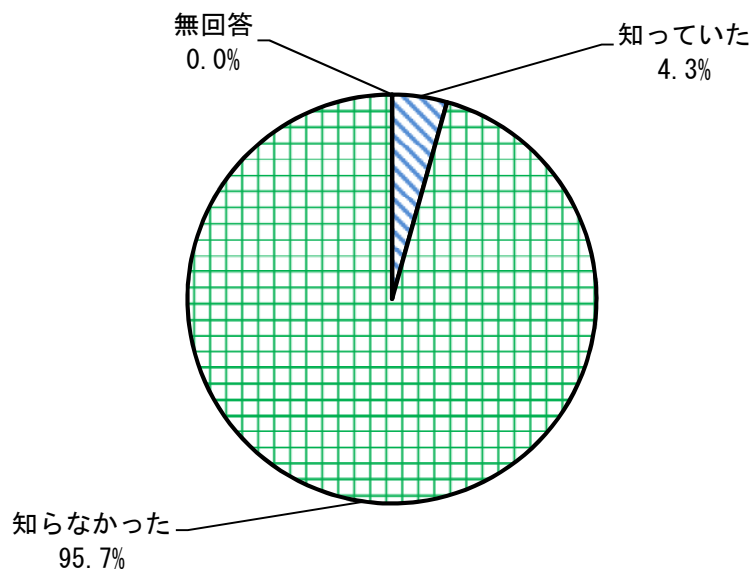
N=437



Q4 【※必須】あなたは、「水の環復活 2050 なごや戦略」を知っていましたか。

（選択は1つ）

N=437

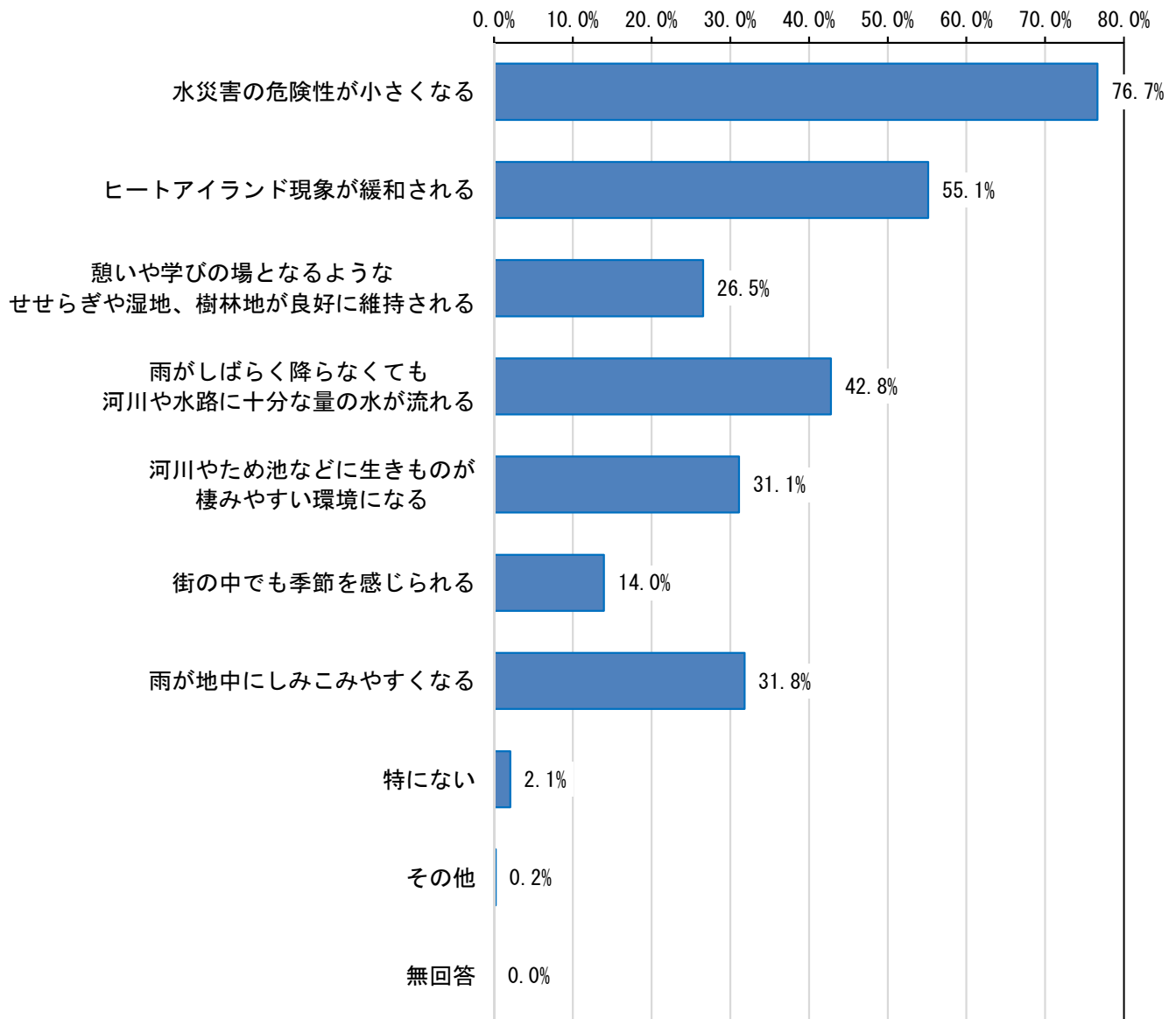


人が活動していくことと並行して、蒸発散により周辺を涼しくすることや雨がしみこみ地下水が十分に涵養(かんよう)されるなどの、環境保全に果たす水の機能が適切に保たれた状態での水循環のことを「健全な水循環」といいます。

【参考資料】添付1：水循環の現状と将来像

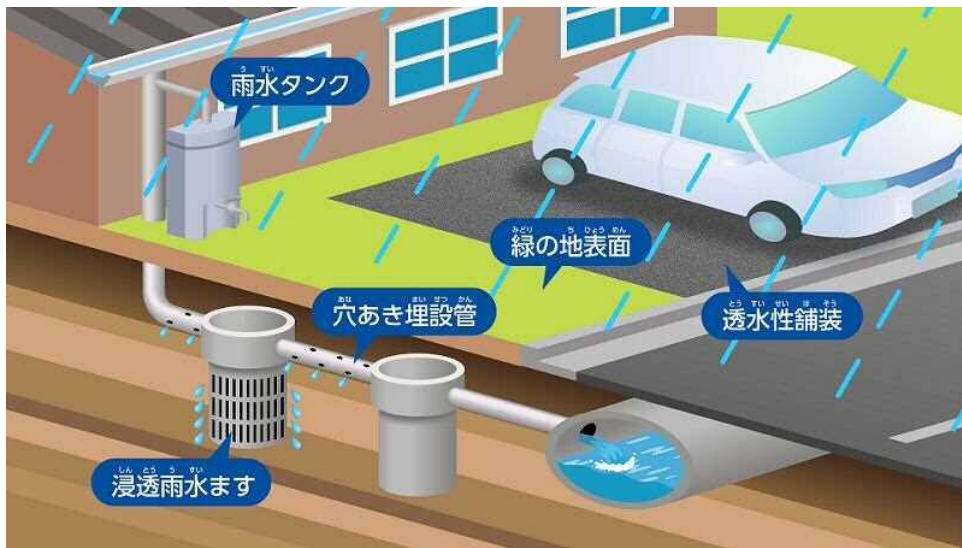
Q5【※必須】健全な水循環の回復により実現することのうち、あなたが特に重要だと思うことは何ですか。(選択は3つまで)

N=437

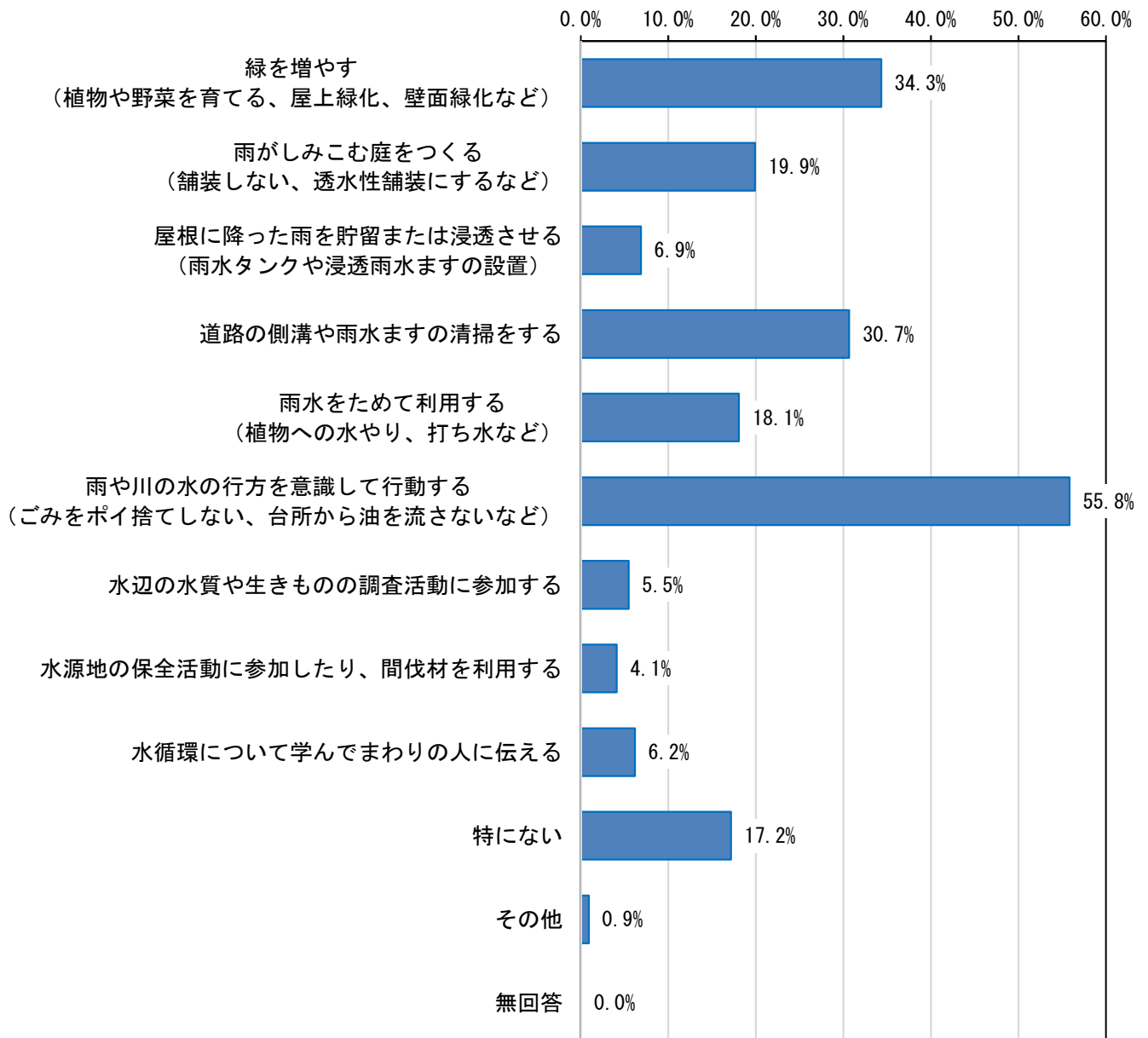


健全な水循環の回復には、行政の取組みだけでなく、市民や事業者の皆様の協力も必要です。

Q6【※必須】暮らしの中で、あなたが実践していることは何ですか。（選択はいくつでも）

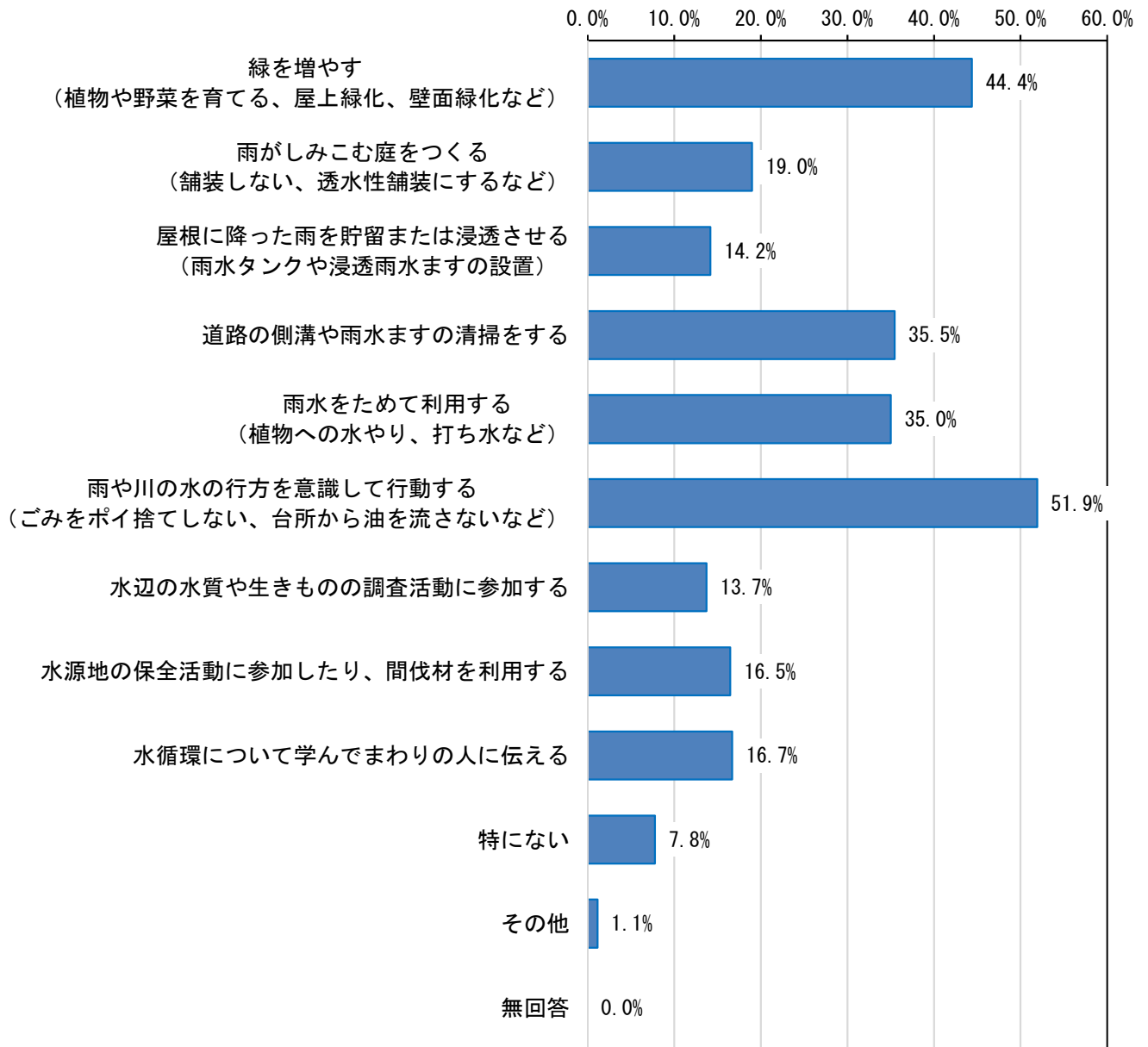


N=437



Q7【※必須】暮らしの中で、今後あなたが実践したいと思うことは何ですか。
 (選択はいくつでも)

N=437



近年、気候変動に伴い水害・土砂災害等が頻発・激甚化しています。水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川・下水道管理者等の取組みだけでなく、流域に関わるあらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）が、主体的に治水に取り組む「流域治水」への転換が必要です。

水循環に配慮して生活することは、健全な水循環の回復だけでなく、治水対策である「流域治水」にも役立ちます。

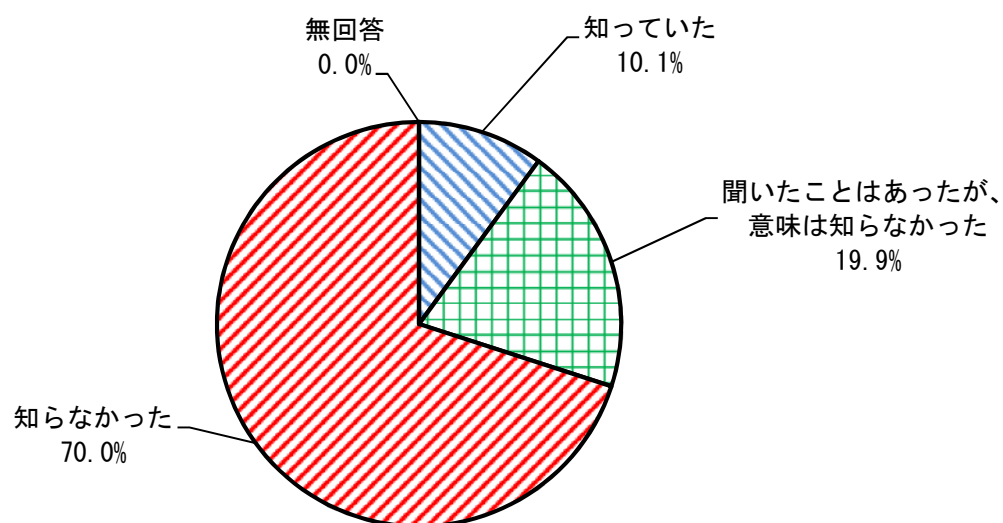
【参考資料】関連リンク：流域治水の推進（国土交通省ウェブサイト）

<https://www.mlit.go.jp/river/kasen/suisin/index.html>

【参考資料】添付2：流域治水

Q8【※必須】あなたは、「流域治水」という言葉を知っていましたか。（選択は1つ）

N=437



自然環境が有する多様な機能を社会における様々な問題解決に活用し、持続可能で魅力のある国土・都市・地域づくりを進めようとする考え方を「グリーンインフラ」といいます。

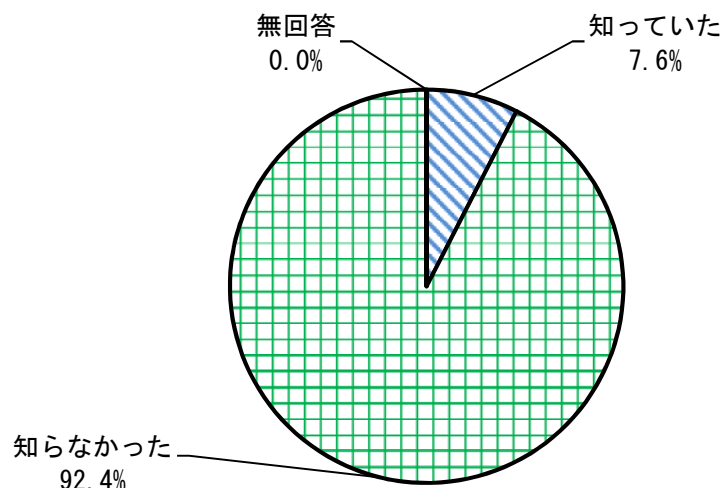
「雨庭（レインガーデン）」は、屋根や舗装面に降った雨水を一時的に溜めて、地中にしみこませる構造を持つ緑地です。雨水流出抑制のほか、ヒートアイランド現象の緩和や生きものの棲みかになること（生物多様性の保全）から、グリーンインフラの一つとして注目されています。

【参考資料】添付3：雨庭について

Q9【※必須】あなたは、「雨庭（レインガーデン）」のことを知っていましたか。

（選択は1つ）

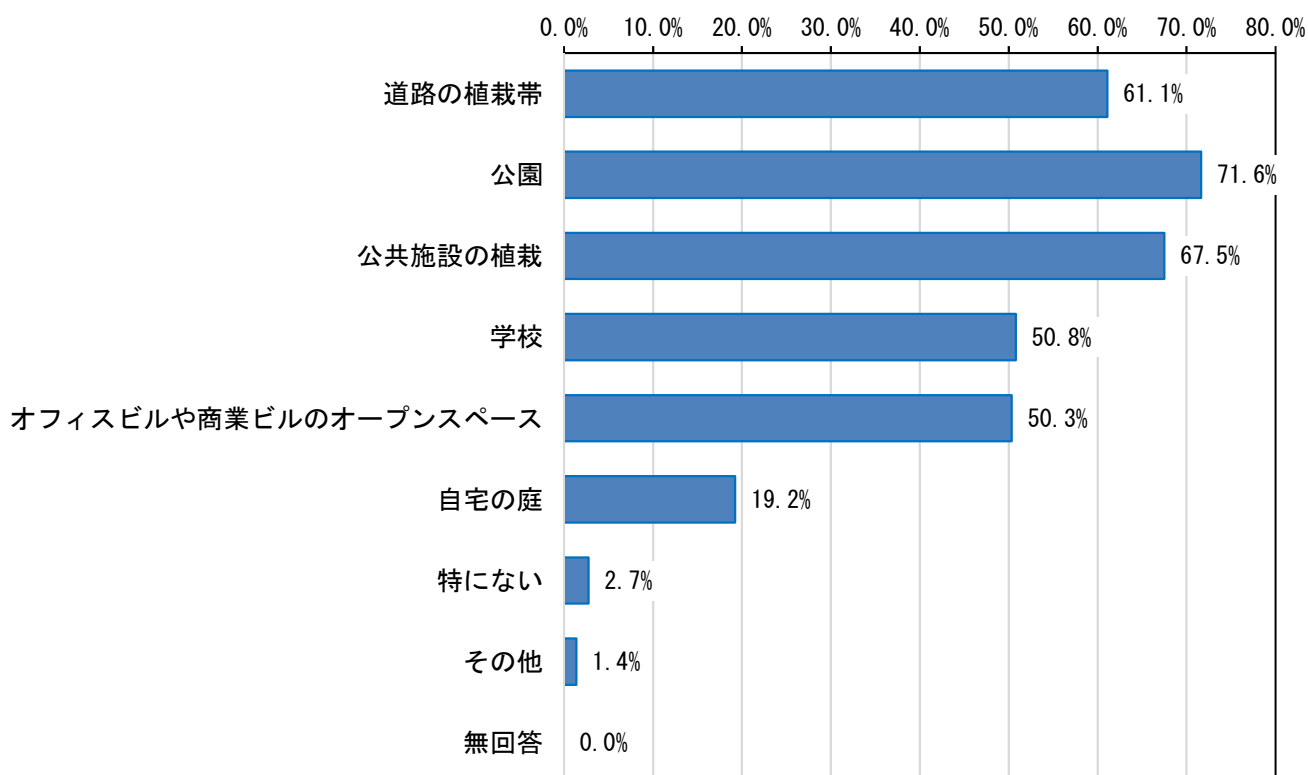
N=437



Q10【※必須】あなたが「雨庭（レインガーデン）」があったらよいと思う場所はどこですか。

（選択はいくつでも）

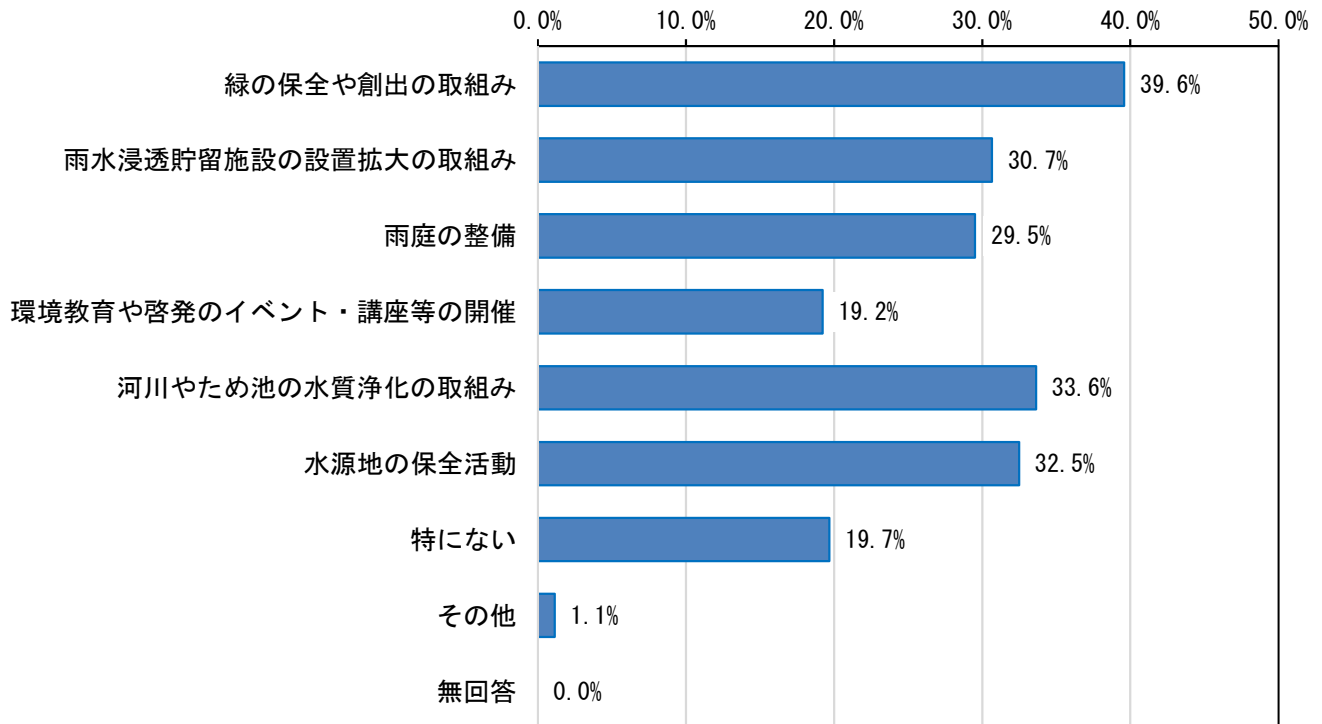
N=437



Q11【※必須】水の環に関する施策のガバメントクラウドファンディング（※）があった場合、あなたが参加してもよいと思うプロジェクトは何ですか。（選択はいくつでも）

※ガバメントクラウドファンディング（GCF）とは、自治体が行うクラウドファンディングのことです。自治体が抱える問題解決のために寄付金の使い道を具体的にプロジェクト化し、「プロジェクトを応援したい」と感じた人から少しずつ資金を調達する仕組みとなっています。

N=437



Q12 名古屋の水循環に関して、ご意見があればご自由にご記入ください。

N=133

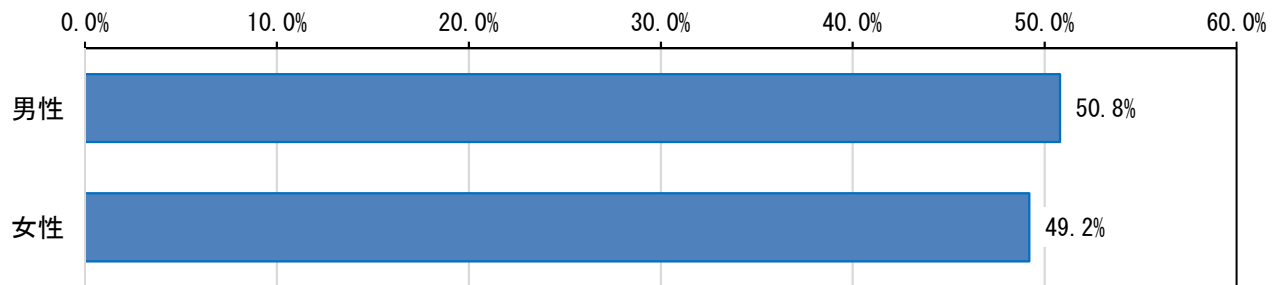
- ・ 今回のアンケートで市は水循環についてかなりしっかり政策を考え実践していることを知った。市政便りなどだけでなく、NHKを中心としたメディアで市民に広報してほしい。もっと、知りたくなった。
- ・ 今まであまり考えてこなかった。何をすべきか考えてみたい。
- ・ ここ数年の雨の降り方は尋常ではなく、大雨による災害はより身近なものになっている。名古屋市で安心して暮らすためにも、水循環に係る施策を進めて下さい。
- ・ 今回のアンケートは知らなかったり、分かりにくいことが多かった。そういった意味で理解活動が重要と感じる。例えば、自然という意味では親子で参加できるようなイベントの開催や、設備設置の費用を補助する仕組みなど。
- ・ 水循環対策は同時に虫対策が必要になると考えられます。害虫駆除対策や方法を同時にアピールすることで、参画ハードルは下がると思います。

ほか

■属性集計

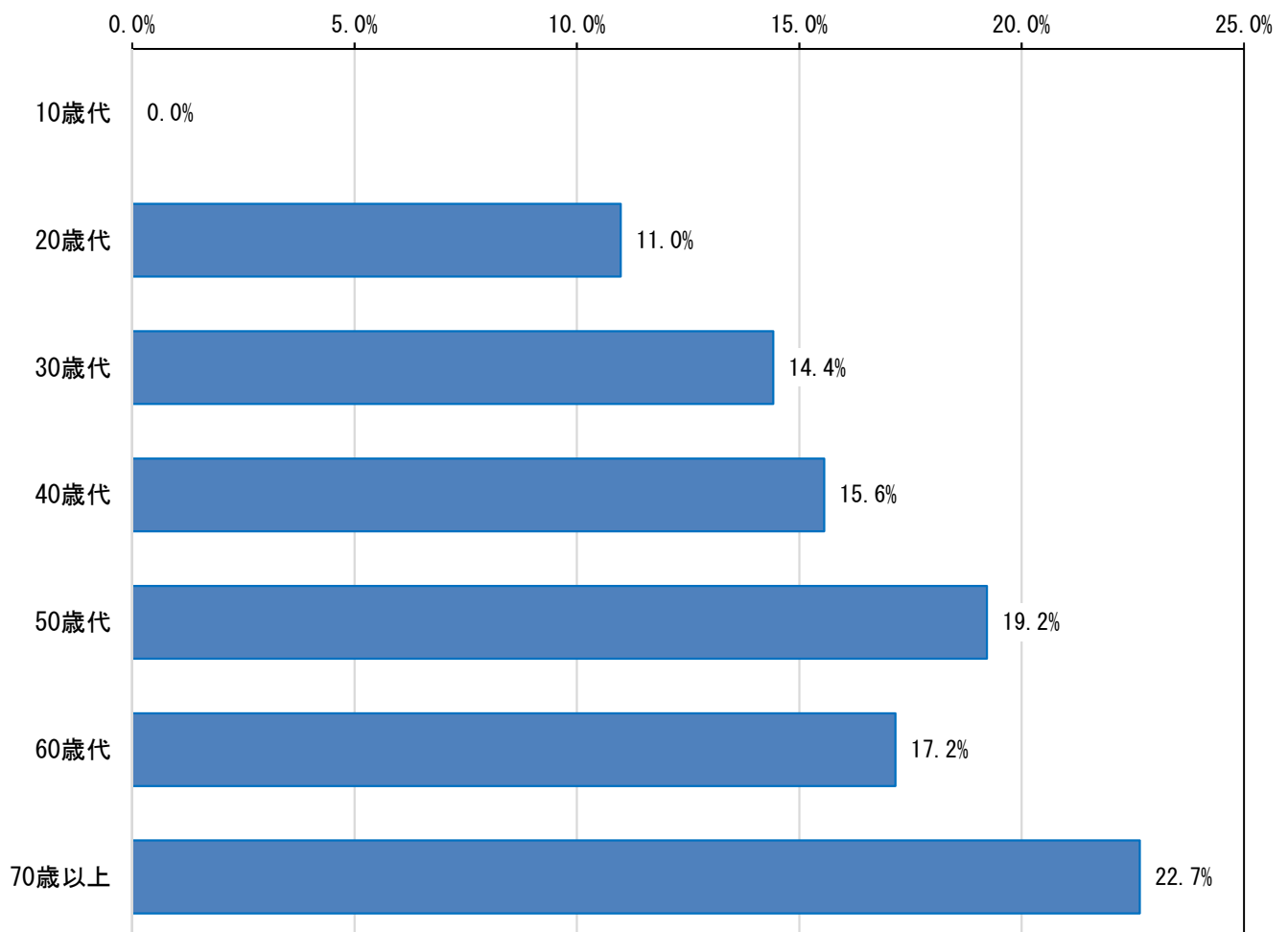
性別

	全体	男性	女性
%	100.0%	50.8%	49.2%
回答者数	437	222	215



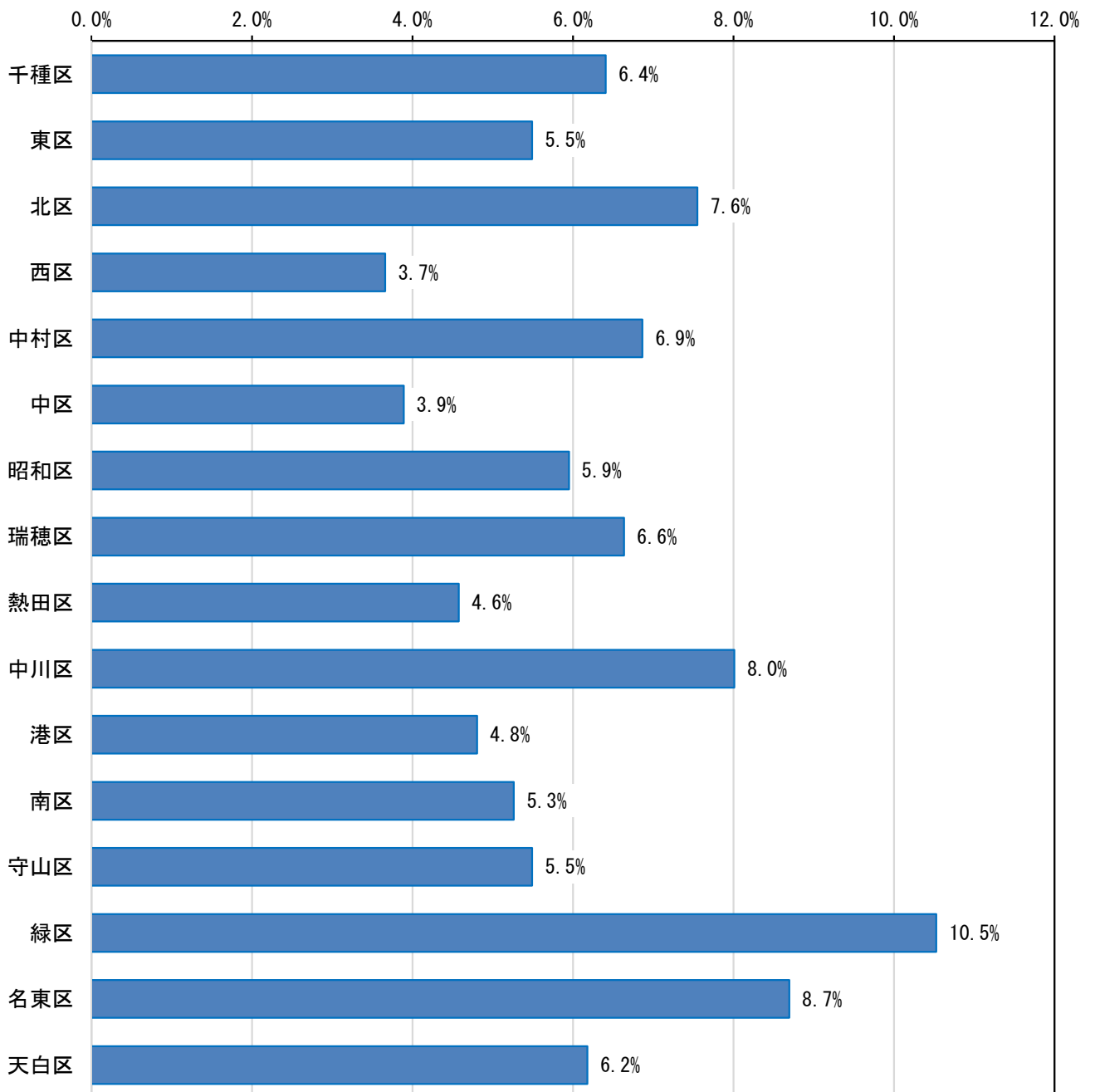
年代

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
%	100.0%	0.0%	11.0%	14.4%	15.6%	19.2%	17.2%	22.7%
回答者数	437	0	48	63	68	84	75	99



居住区

	全体	千種区	東区	北区	西区	中村区	中区
%	100.0%	6.4%	5.5%	7.6%	3.7%	6.9%	3.9%
回答者数	437	28	24	33	16	30	17
		昭和区	瑞穂区	熱田区	中川区	港区	南区
		5.9%	6.6%	4.6%	8.0%	4.8%	5.3%
		26	29	20	35	21	23
		守山区	緑区	名東区	天白区		
		5.5%	10.5%	8.7%	6.2%		
		24	46	38	27		

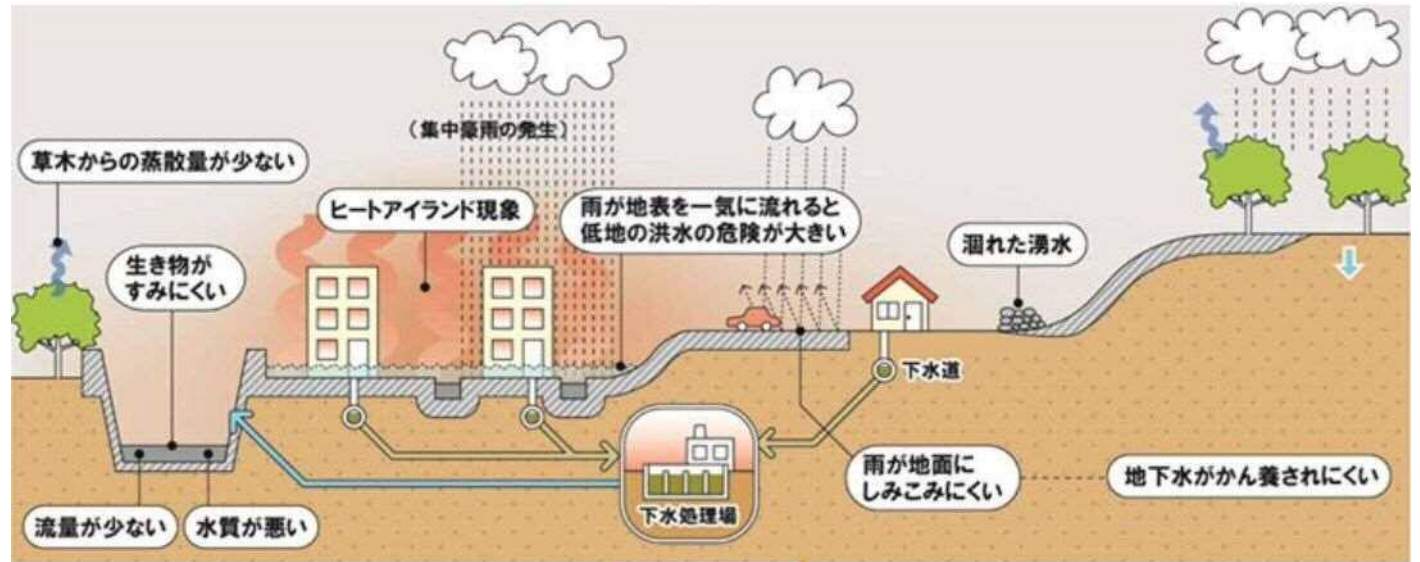


【参考資料】

添付 1 : 水循環の現状と将来像

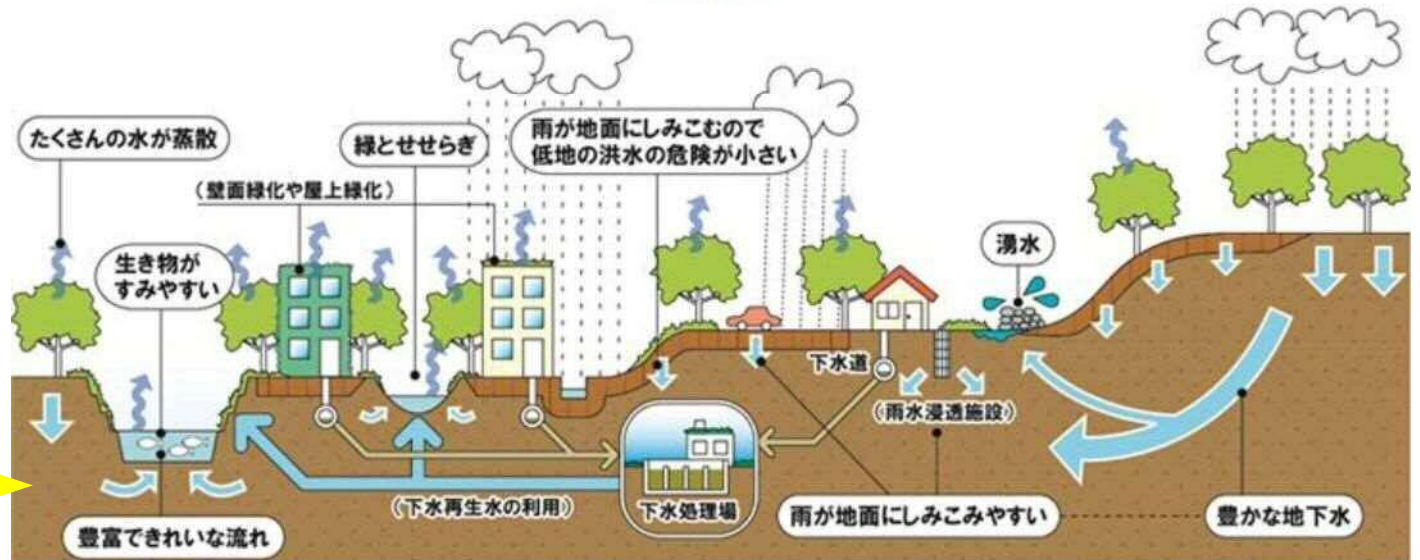
水循環の現状と将来像

水循環の観点から見た
名古屋の現状



戦略の推進

将来像



「健全な水循環が回復」
している状態

【参考資料】

添付 2 : 流域治水



【参考資料】

添付 3 : 雨庭について

あめにわ

雨庭とは...

屋根や舗装面に降った雨水を一時的に溜めて、地中に浸み込ませる構造を持つ緑地のことです。

地下水涵養や下水の負荷軽減、河川の汚濁負荷軽減などを目的としたグリーンインフラとして注目されています。

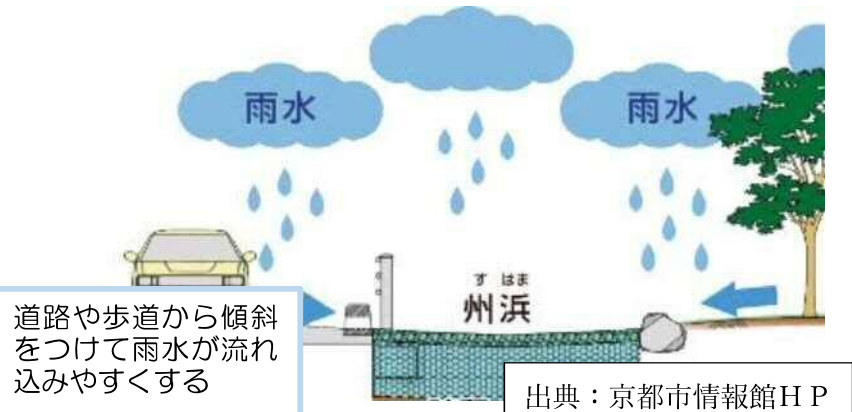
① 雨を集める

「住宅の庭」、「広場や駐車場の隅」、「道路の植樹帯」などに設置し、近くの不浸透面（建物やコンクリート、アスファルトの地面など）から雨庭へと雨水を導きます。

住宅の庭に設置の場合



道路の植樹帯に設置する場合



京都市堀川高校前の雨庭（植樹帯を利用）

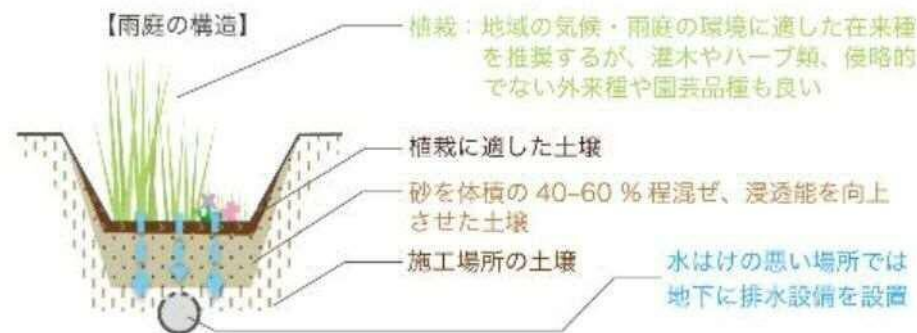
② 雨を貯める

雨庭は、集めた雨水を一時的に貯めるために、窪地型にします。また、雨水があふれ出さないよう、一定量以上溜まると既設の排水設備へと排水されるようにします。



③ 雨を浸透させる

雨庭は、貯めた雨水が48時間以内には地中に浸透するように、必要に応じて土壌改良を施します。



出典：雨庭のすすめ（改訂版）